

令和6年能登半島地震 第1回 災害支援ボランティア

2024.4.19 FRI - 21 SUN

ねらい

- ・ボランティア活動を通して、災害について考え、共に復興を目指す応援団になる
- ・周囲の人々に『被災地の今』を伝え、少しでも能登半島地震に対する興味関心を喚起し、応援する仲間を増やす

内容

- ①七尾市能登島緩目で旅館および民家の家財の運び出し、ごみの分別、掃除等を実施
- ②輪島市朝市通り周辺の被害状況についての視察
- ③防災食づくり体験

参加者の声

地震が起こって4ヶ月弱が経ち、テレビでも報道されることが少なくなり、能登半島地震への関心が薄れ始めています。私自身も能登半島地震への関心が薄れていました。しかし、今回のボランティア活動に参加し、能登半島地震が起こり、その影響がまだ残り続けているということをおぼろげに感じていたと強く感じました。今こうやって普通の生活ができていることに感謝するのはもちろん、被災地のために私に今できることは何かを考え、自分が見て感じた能登半島の現状を周りの人に伝えていきたいと思いました。

参加人数 15名

協力団体 朝日新聞厚生文化事業団より活動資金の一部を助成／浄土真宗本願寺派能登半島地震支援センター



令和6年能登半島地震 第1回 災害支援ボランティア 報告会(対面・オンライン)

2024.4.24 WED

ねらい

活動に参加した学生が、支援活動や現地の様子、自分自身の思いを言語化して伝えることにより、能登半島地震に対する興味関心を喚起し、応援する仲間を増やす。

内容

第1回災害支援ボランティアの活動内容について、
ハイブリット形式で報告しました。

- ①学長挨拶
- ②概要説明(引率職員)
- ③活動内容動画上映
- ④参加学生報告
- ⑤質疑応答
- ⑥センター長挨拶

参加者の声

学生が見たこと、聞いたこと、体験したことを学生が自らの言葉で語ることはとても意義があると感じました。学生たちの真剣な表情もあいまって、テレビ等では伝えきれない被災地の想いを感じました。

参加人数 67名



令和6年能登半島地震 第2回 災害支援ボランティア

2024.5.24 FRI - 26 SUN

ねらい

- ・ボランティア活動を通して、災害について考え、共に復興を目指す応援団になる
- ・周囲の人々に『被災地の今』を伝え、少しでも能登半島地震に対する興味関心を喚起し、応援する仲間を増やす

内容

- ① 珠洲市で津波被害があった地域において、道路の側溝清掃を実施
- ② 輪島市朝市通り周辺の被害状況についての視察

参加者の声

今回震災後の能登にボランティアとして来るのは5回目になるのですが、石川県七尾市で実際に震災の被害を受けた身として、言葉にならない様々な感情を毎回感じます。そんな中でどこに行っても感じるの、地域の温かさやコミュニティの強さです。また、行くたびに一時的であったとしても笑顔で活動してくれる地域の方と、それを支えてくださる社協職員を含めたコーディネートして下さる方の継続した力の結晶であることも、併せて感じました。

参加人数	15名	協力団体	日本財団ボランティアセンター共催 / 珠洲市社会福祉協議会
------	-----	------	-------------------------------



令和6年能登半島地震 第2回 災害支援ボランティア 報告会(対面・オンライン)

2024.5.30 THU

ねらい

活動に参加した学生が、支援活動や現地の様子、自分自身の思いを言語化して伝えることにより、能登半島地震に対する興味関心を喚起し、応援する仲間を増やす。

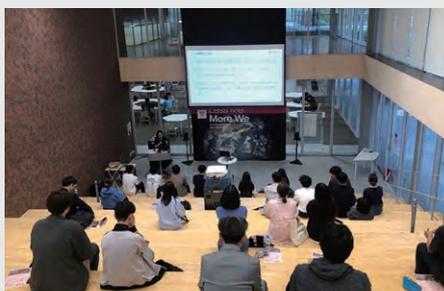
内容

第2回災害支援ボランティアの活動内容について、
 ①概要説明(引率職員) ②活動内容動画上映 ③参加学生報告
 ハイブリット形式で報告しました。
 ④質疑応答 ⑤課長挨拶

参加者の声

なぜこんなに時間が経っているのに支援がまだ来ていないのかと思っていたのですが、報告者が言っていた被災者の人が一生懸命頑張っている事を忘れてはいけないと言っていた事が印象に残りました。それは決して忘れてはいけない事だと非常に心に刺さりました。

参加人数	137名
------	------



令和6年能登半島地震 第3回 災害支援ボランティア

2024.9.3 TUE - 6 FRI

ねらい

- ・ボランティア活動を通して、災害について考え、共に復興を目指す応援団になる
- ・周囲の人々に『被災地の今』を伝え、少しでも能登半島地震に対する興味関心を喚起し、応援する仲間を増やす

内容

- ① 輪島市朝市通り周辺の被害状況についての視察
- ② 珠洲市内の民家の災害ゴミの分別、瓦の運び出し、清掃等を実施
- ③ 一般社団法人BIGUP石巻の阿部氏のお話
- ④ 珠洲市蛸島の仮設集会所でのサロン活動
- ⑤ 国立能登青少年交流の家の北見所長のお話
 - ・ボランティア活動に加え、様々な立場で復興支援に携わっておられる方々からお話を伺いました。

参加者の声

現地に行き、報道よりも詳しく能登の現状を知ることができたので良かったです。北見さんのお話の「思い出がその人の支えになる」「いい思い出が乗り越える力になる」という言葉が印象に残っています。新しい発見が多く充実した4日間でした。

参加人数 21名

協力団体 日本財団ボランティアセンター共催/国立能登青少年交流の家/一般社団法人BIGUP石巻/珠洲市社会福祉協議会



令和6年能登半島地震 第3回 災害支援ボランティア 報告会(対面・オンライン)

2024.10.9 WED

ねらい

活動に参加した学生が、支援活動や現地の様子、自分自身の思いを言語化して伝えることにより、能登半島地震に対する興味関心を喚起し、応援する仲間を増やす。

内容

第3回災害支援ボランティアの活動内容について、
ハイブリット形式で報告しました。

- ① 概要説明(引率職員)
- ② 活動内容動画上映
- ③ 参加学生報告
- ④ 質疑応答
- ⑤ 副学長挨拶

参加者の声

私では役に立たないのではないかとこの思いもあってなかなか現地へ行く勇気が出ていないので行かれた方は本当に尊敬します。また、そんな私でも役に立てそうなことも分かったので、次回に行けるかは分かりませんがどこかで行きたいと思います。

参加人数 68名



令和6年能登半島地震 第4回 災害支援ボランティア

2024.11.15 FRI - 17 SUN

ねらい

- ・ボランティア活動を通して、災害について考え、共に復興を目指す応援団になる
- ・周囲の人々に『被災地の今』を伝え、少しでも能登半島地震に対する興味関心を喚起し、応援する仲間を増やす

内容

- ① 珠洲市蛸島の仮設集会所でのサロン活動
- ② リポート珠洲の復興支援ツアーへの参加
- ③ 豪雨災害の土砂流入で埋もれた側溝の泥だし、家財や仏壇の搬出

参加者の声

現地に行ってみないと分からないことが多いのだと気づかされました。どれだけテレビを見ていても話を聞いていてもそれが勝つことはないのだと実感しました。ボランティアの最中は人の温かみを感じるばかりでした。人とつながるということは大変なことも嫌なこともあるかもしれませんが、勇気づけられたり支えられたりできるのも他でもない人であることを思い知らされました。参加してよかったです。

参加人数	15名	協力団体	浄土真宗本願寺派能登半島地震支援センター／珠洲市社会福祉協議会
------	-----	------	---------------------------------



令和6年能登半島地震 第4回 災害支援ボランティア 報告会(対面・オンライン)

2024.11.28 THU

ねらい

活動に参加した学生が、支援活動や現地の様子、自分自身の思いを言語化して伝えることにより、能登半島地震に対する興味関心を喚起し、応援する仲間を増やす。

内容

第4回災害支援ボランティアの活動内容について、
 ①概要説明(引率職員) ②活動内容動画上映 ③参加学生報告
 ハイブリット形式で報告しました。 ④質疑応答 ⑤副センター長挨拶

参加者の声

報告会の中で1番印象に残ったことは、お茶会での被災者の皆さんの笑顔です。皆さんが笑顔で学生と交流している様子を見て、お茶会がいかに大切か、若い学生との交流で心が和むということはこういうことかと感じました。また学生の報告を聴き「繋がり」の大切さを学びました。災害国である日本はいつどこで災害が起こるか分かりません。私も改めて地域の人たちとの交流を大切に、まずは元気な挨拶から始めてみようと思います。

参加人数	約50名
------	------



令和6年能登半島地震 第5回 災害支援ボランティア(教職員対象)

2025.3.21 FRI - 23 SUN

ねらい

- ・ボランティア活動を通して、災害について考え、共に復興を目指す応援団になる
- ・周囲の人々に『被災地の今』を伝え、少しでも能登半島地震に対する興味関心を喚起し、応援する仲間を増やす

内容

- ①能登町役場内浦総合支所にて炊き出し(約500食)および子ども縁日の運営サポート
- ②和倉温泉の被災施設の視察および被害状況の説明
- ③リポート珠洲の復興支援ツアーへの参加

参加者の声

臨機応変な対応が必要な場面が多くありましたが、助けあいながら作業することで、時間通りに食事を提供することができました。その裏では本願寺のスタッフの皆さんが前日深夜まで丁寧に準備をされていたことを後になって知り、頭が下がる思いでした。準備や段取りの大切さを学ばせて頂きました。また、ボランティアに参加していた本学の学生が本願寺の職員さんとの信頼関係を構築し、現場を任せられ奮闘している姿に感動しました。学生の力は凄いと改めて感じました。

参加人数 7名、センター職員5名

協力団体 内閣府より交通費の一部を助成/浄土真宗本願寺派能登半島地震支援センター

復興支援フォーラム 学生だからできること
～能登半島地震の支援と防災・減災～ (対面・オンライン)

対面オンライン 2025.3.6 THU

ねらい

この1年の支援活動をふりかえり、これからの能登の支援、更にはいつどこで起こるかわからない災害に対して何ができるのかを参加者と共に考える

内容

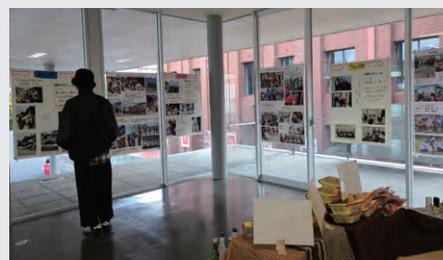
- ①基調講演 阿部 由紀氏 一般社団法人BIG UP石巻 代表理事
「災害と暮らしの関係性ー役割分担と調整機能の必要性ー」
- ②能登での活動経験学生による活動報告
西村太陽・井狩咲希・蔵本千優・越岡滉周
- ③講師と学生によるパネルディスカッション
コーディネーター：川中大輔副センター長
- ④物販&展示
・一般社団法人BIGUP石巻への支援金として、会場内に募金箱を設置しました。物販での収益を合わせて全額同団体に寄付しました。

参加者の声

印象に残っているお話は、支援に回る際は自分たちの意見や一般論を押し付けるのではなく、地域の歴史・背景を知りそれを重んじた上で支援していくということです。支援を受ける側の視点に立った時に、生活の中でボランティアを受け入れることもしんどいと思います。この考え方はとても大切だと感じました。また、近隣同士で交流している地域はお互いに助け合いができるとおっしゃっていたように、私自身も普段の生活から地域と繋がっておくことは大切だと感じました。

参加申込者数 92名

協力 阿部由紀氏(一般社団法人BIG UP石巻 代表理事)



「令和6年能登半島地震」 募金活動(入学式・新歓)

2024.4.1 MON, 2 TUE, 4 THU, 5 FRI

ねらい

- ・支援金・義援金として被災地域を応援する
- ・現地に行く以外にも応援できることを知る

内容

入学式及び新歓期間中にキャンパス内において、学生スタッフが能登半島地震の支援のための募金を呼びかけました。集まった募金は中央共同募金会へ支援金・義援金として寄付しました。
募金総額 132,082円 (入学式105,205円／新歓26,877円)

参加者の声

募金は街頭やテレビでも見るけれど、自分が募金箱を持って行うのは初めてでした。募金箱にお金を入れてもらったときは、とてもうれしかったですし、能登を応援したいという思いが広がっていけばいいなと思いました。

参加人数 学生スタッフ有志(深草7名／瀬田11名)



令和6年能登半島地震／豪雨災害緊急募金活動 龍谷祭展示会場への募金箱設置

2024.10.9 WED - 11.8 FRI

ねらい

- ・支援金・義援金として被災地域を応援する
- ・現地に行く以外にも応援できることを知る

内容

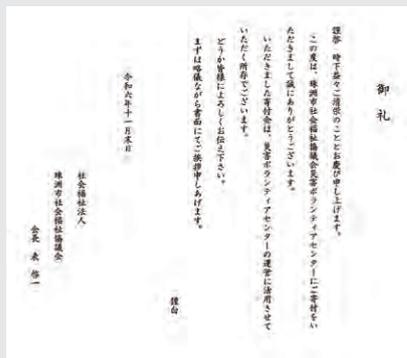
4月以降継続して支援に入っている能登で発生した豪雨災害を受け、緊急募金活動を実施。SNSやポスター等で呼び掛け、募金箱をセンターおよび龍谷祭の展示会場に設置しました。募金で集まった金額に、龍谷祭模擬店での収益金額(42,188円)を加え、これまでボランティア活動に参加していた珠州市社会福祉協議会へ支援金として寄付しました。
募金総額 141,757円

能登半島地震 豪雨災害 支援金緊急募金



寄付先：社会福祉法人珠州市社会福祉協議会
募集期間：2024年10月9日～11月8日

センター内のカウンターに募金箱を設置しています。
ご協力お願いします。



災害復興支援ボランティア活動に伴う交通費等助成制度

通 年

わらう

学生が自発的に災害支援活動を行うことを支援する

内 容

災害復興支援ボランティア活動に参加する学生に対し、交通費および宿泊費等の半額を助成しています。助成額の上限は1回につき1万円、年間2回まで申請可能。

今年度は全て令和6年能登半島地震に関連する活動への助成という結果になりました。

参加者の声

実際に現場に足を運び考えられたこととして、被災から約5か月が経ってもテレビで見ている様子と変わらない現状だった。ボランティアが不足していると感じた。一方で、住民の方の優しさを感じられた、作業を行う中で住民の方と話す機会があったが、「石川は海鮮が美味しいよ、お昼一緒に食べよう」といったことばをもらい、支援をするはずが、自分がたくさんの支援を頂いた。復興にはまだまだ時間がかかるため、継続的に支援活動を行いたいと思った。

参加人数 延べ25名



災害復興支援ボランティア委員会規程

令和3年6月17日

(目的)

第1条 この規程は、龍谷大学及び龍谷大学短期大学部（以下「本学」という。）が社会貢献の一環として取り組む自然災害等の復興支援に係るボランティア活動に関して必要な事項を定め、迅速かつ円滑なボランティア活動の遂行を図ることを目的とする。

(委員会)

第2条 前条の目的を達成するため、本学に災害復興支援ボランティア委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(審議事項)

第3条 委員会は、次の各号に関する事項を審議・決定する。

- (1) 復興支援に係るボランティア活動の実施に関する事項
- (2) 復興支援に係るボランティア活動の内容とその範囲に関する事項
- (3) 復興支援に係るボランティア活動に要する経費等に関する事項
- (4) その他復興支援に係るボランティア活動に必要な事項

(構成等)

第4条 委員会は、次の各号の委員をもって構成する。

- (1) 学長が指名する副学長 1名
- (2) 学長が指名する学部長 若干名
- (3) 学生部長
- (4) ボランティア・NPO活動センター長
- (5) ボランティア・NPO活動センター副センター長
- (6) ボランティア・NPO活動センター事務部長

(7) 学長が指名する学内の学識経験者 若干名

2 前項第7号の委員の任期は1年とする。ただし、再任を妨げない。

3 委員会が必要と認めるときは、構成員以外の出席を求め、その意見を聴くことができる。

(委員長・副委員長)

第5条 委員会に、委員長及び副委員長各1名を置く。

2 委員長は、前条第1項第1号の委員をもって充てる。

3 副委員長は、前条第1項第4号の委員をもって充てる。

4 委員長は、委員会を招集し、議長となる。

5 副委員長は、委員長の職務を補佐し、委員長に事故あるときはその職務を代理する。

(成立要件・議決要件)

第6条 委員会は、構成員の3分の2以上の出席をもって成立し、議決は出席者の過半数の同意をもって行う。

(事務処理)

第7条 この規程の運用に伴う事務処理は、ボランティア・NPO活動センター事務部が行う。

(改廃)

第8条 この規程の改廃は、委員会の議を経て、評議会において決定する。

付 則

この規程は、制定日（令和3年6月17日）から施行する。